



社会福祉法人 親善福祉協会
介護老人保健施設

リハパーク舞岡 広報誌

第35号
2022年2月



コロナ禍で迎える2022年

当施設が舞岡の地に根差し13年目を迎えました。コロナ禍も2度目の正月を迎えましたが、今だ先が見えません。2年以上に渡り、入所者のご家族の面会は感染症対策上儘ならない現況で、入所者は勿論ご家族の皆様の辛さは計り知れません。ボランティアの方々の活動も途切れ、職員達が施設内で買物会を催したり、カフェ風の雰囲気ですイーツを食べたりして入所者の皆さんの“心のケア”にも取り組んでいます。これ等の企画は大好評で、入所者の皆さんからは満面の笑みを返していただき、我々も逆に癒される瞬間でもあります。

新型コロナウイルスの1日も早い収束を願わずにはられません。

(写真) 本田施設長

Contents

- 本入所・ショートステイ
- 通所リハビリテーション
- イベント情報



公式サイトは
こちらから

イベント情報

2月



3月



「ひなまつり」

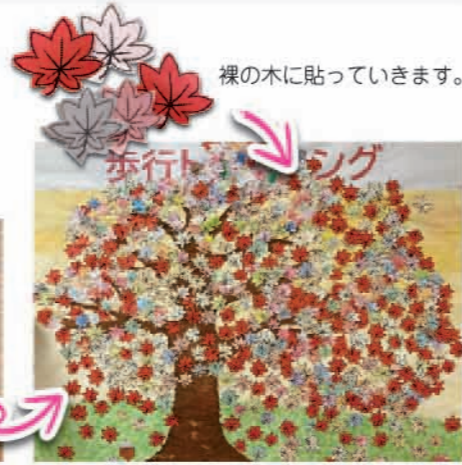
4月



「桜餅づくり」

— 歩行トレーニング —

通所リハビリテーションでは、介護リハビリで歩行トレーニングを行っています。一日で決まった歩行トレーニングを達成すると所定の場所にシールを貼ります。歩行トレーニングをされない方は、塗り絵にて参加。令和3年12月末まで紅葉のシール・塗り絵にて紅葉の木が満開となりました。どこに葉をつけようかと楽しんでおられる利用者様の姿が見られました。令和4年1月からは梅の花チャレンジ中。満開になるのが楽しみです



裸の木に貼っていきます。

— 編集後記 —

令和4年がはじまりました。皆様どのような新年をお迎えになられましたでしょうか。

私は福祉の仕事に飛び込んでから23年目となりました。

福祉の仕事に入るきっかけは、民生委員をしていた祖母より「あなたは、体が丈夫、声も大きい、人に対して優しいから」との話を受けたことでした。在宅と寄り添っている介護老人保健施設にこだわり続け23年間勤められているのは、ターニングポイントでのご利用者様・ご家族様との出会いや別れがあったからだと考えています。

私の令和3年は、年齢を重ねたせいなのか、日々何かに追われていたのか、1年間が短く感じる年でした。新型コロナウイルス感染症まん延に敏感に反応しながら、利用者様と東京五輪話に一喜一憂し、私自身も東京五輪で活力をもらい、利用者様と日々冗談話や生活上の困りごと、社会情勢など多種多様な話をさせていただきながら過ごしてまいりました。

新型コロナウイルス オミクロン株感染の不安の中ではありますが、ご利用されている方々の、活力の欠片となれるようにすすめていきたいと思えます。

通所リハビリ支援相談員 牧島 紀子

— アクセス —

- 交通機関をご利用の場合は……
 - ▷横浜市営地下鉄ブルーライン「舞岡駅」下車 2番出口より 徒歩 約10分
 - ▷JR東海道線・横須賀線「戸塚駅」東口戸塚 22系統 舞岡行バス乗車 10分 終点「舞岡」下車 徒歩 約10分
- タクシーをご利用の場合は……
 - ▷JR「戸塚駅」東口タクシー乗り場より約15分
 - ▷横浜市営地下鉄ブルーライン「上永谷駅」駅前タクシー乗り場より15分
- お車でお越しの方は、来客駐車場（無料）完備



介護老人保健施設 リハパーク舞岡
〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町3048-4
TEL: 045-825-3388



詳しい地図は
こちらから

本入所・ショートステイ



「超強化型」老健として医療、看護、介護、リハビリテーション、栄養等の様々な専門職が集まり、多職種協働で「在宅復帰」「在宅支援」を行っています。在宅復帰後もリハビリテーションが必要になったときには再入所（リピート利用）が可能です。

- **本入所**
 - 【定員】100床
 - 【居室】ユニット型 全室個室
 - 【入所要件】要介護1～5
- **ショートステイ**
 - 【定員】空床利用（4床確保）
 - 【入所要件】要支援1～2、要介護1～5

ご相談・ご見学はお気軽にご連絡ください 支援相談員：小山めぐみ/猪脇隆志 045-825-3388（平日9：00～18：00）

通所リハビリテーション



在宅で生活されている方を対象とした日帰りのリハビリを行います。マシンを用いたトレーニングや集団のリハビリ体操、レクリエーションを通し、身体機能維持・向上を図り、自立支援を目的としたサービスを提供します。

【利用日時】長時間型 月曜日～土曜日 10：00～16：10
短時間型 月曜日～金曜日 10：00～13：05
13：05～16：10

【定休日】日・祝日及び12/30～1/3
【送迎】あり ※送迎エリアについては、下記担当までお問い合わせください。

ご相談・ご見学はお気軽にご連絡ください 支援相談員：牧島 紀子 045-825-3388（平日9：00～17：30）

こんにちは 栄養課です。

ミールラウンド（食事場面の観察）

～多職種が一つのチームになり、ご利用者の食べることをサポート～



認知機能や嚥む機能、飲み込む機能の低下により、今まで食べていた食事形態が難しくなってきたとしても、食欲、意欲を持ち続けて頂きたい思いから、リハパーク舞岡では、チームで「食べる楽しみ」をサポートしています。メンバーは、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、介護士、介護支援専門員、管理栄養士と、協力機関である歯科医院の歯科衛生士です。チームで行うミールラウンドでは、嚥む機能、飲み込む機能が対象者の食事形態に適しているか、歯や義歯の状態、食事のテーブルや椅子の高さ、食べる姿勢、食べるスピード、一口量、食べ物への認知機能、食べる道具の種類や使い方、食事介助の方法、食事摂取量、食の嗜好などを観察します。さらに、バイタル、服薬状況、排泄、睡眠、精神面での課題など全身状態を加え情報を共有し解決に向けた話し合いを行います。

おせち料理

当施設では、嚥む機能、飲み込む機能に応じた食事形態で、食の安心と口から食べるお楽しみをご提供しております。

引用：日本摂食・嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類 2021 classification2021-manual.pdf (jsdr.or.jp)

今年も大好評だった、元日のおせち料理で各食事形態を紹介いたします。



食と栄養に関する管理栄養士による1分間スピーチ

令和3年10月より通所リハビリテーションでは、管理栄養士による栄養アセスメントを開始しました。リハビリの効果を最大限に発揮出来るためには、栄養状態の管理も重要です。朝食を欠食のまま、リハを実施しては逆効果です。バランスのとれたお食事をしっかり召し上がっていただけるよう、管理栄養士による1分間スピーチを開始しました。その日の献立にあわせた、栄養に関する知って得する情報をお伝えします。

写真では、リハの効果を上げるために必要な栄養素、たんぱく質についてスピーチをさせていただきました。



介護課職員によるユニット生活リハビリについて

介護課職員によるユニット生活リハビリを令和2年12月1日から実施しており、どのような目的で行っているのか報告させていただきます。

なぜユニット生活リハビリを開始したのか？

全てのご利用者様がリハビリの対象になるわけではありませんが、在宅復帰の為にADLを維持向上させたい方や在宅復帰は未定だが見込みのある方、看取り対応だが小まめな褥瘡予防を努めている方に対し、リハビリ課職員がユニット職員に向けて毎週リハビリ指示書を作成し介護課職員が毎日指示書に沿った生活リハビリを行っています。（※参照）

生活リハビリとは、特別な事ではなく普段、私たちが生活する上で無意識に行っているような動作の事を指し、無理なく安全に行える内容になっています。

3D	ユニット	内容
		サークル歩行で一日一回歩行練習をお願いします。距離は3Fフロア地下1住居階までですが、本人の体調に合わせて出来る範囲で構いません。
		褥瘡発生のリスクが高いため、週日除圧とポジショニングを行って下さい。
		食卓のテーブルは高さをお知らせいたします。
		座位の運動をお願いします。 ①20分以内、20分以内②10分、10分③10分、10分④10分、10分⑤10分、10分 ※個別リハビリが終了後、カンダにシールを貼る付けて下さい。
		リハビリの準備をお願いします。必要に応じてリハビリシートを準備して下さい。+ブルーの付いたリハビリシート、スクワット10回3セットを準備して下さい。+ブルーの付いたリハビリシートを準備して下さい。
		食卓の準備は、食卓に車椅子をセッティングし居るまで、見守りにて様子を伺って下さい。+ふるつきが見られる時があるので転倒に注意して下さい。

※各ユニットに毎週更新される指示書です。（作成：リハビリ課）



毎日1～2回ユニット内の手すりを消毒して頂きます。手を伸ばしたり上げたりする動きにより肩の可動域を広げ筋力の維持向上に繋がります。人の役に立つことでの幸福感を得ることも目的の一つです。



毎日居室前の手すりを使いスクワットや片足立ち、踵上げを行っています。介護職員は近位で声を掛けながら無理なく安全に行っています。



歩行訓練は転倒予防のため直ぐに支えられるよう介護職員が手を添えて安全に行っています。



同じメニューの方が居る場合には、一緒に行う事があります。レクリエーションのように楽しんで生活リハビリを行っています。